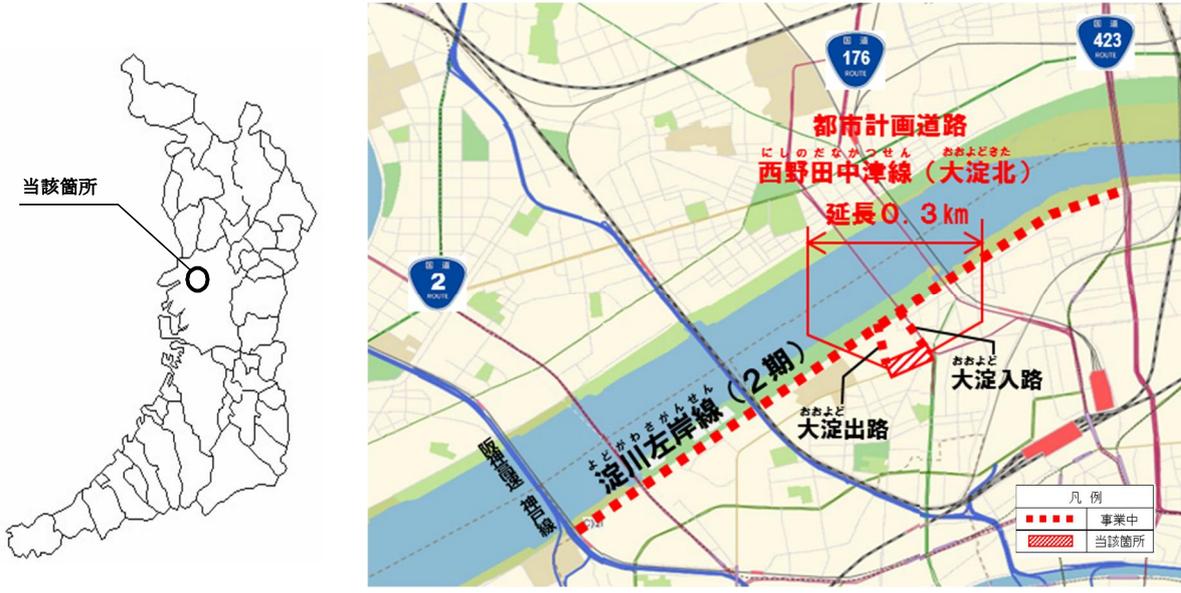


再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課:都市局 街路交通施設課
担当課長名:青柳 太

事業名	地高ICアクセス 都市計画道路 <small>にしのだなかつ おおよどきた</small> 西野田中津線(大淀北)		事業区分	街路	事業主体	大阪市	
起終点	自: <small>おおさかしきたくおおよどきた1ちようめ</small> 大阪市北区大淀北1丁目 至: <small>おおさかしきたくおおよどなかつちようめ</small> 大阪市北区大淀中3丁目				延長	0.3 km	
事業概要							
<p>本路線は、現在事業中の地域高規格道路の淀川左岸線(2期)大淀出路の1次アクセス道路として、インターチェンジから都心部(東方面)へのアクセス性の向上に寄与する路線であり、交通の円滑化及び安全な歩行者空間の確保を図ることを目的とし、大阪市北区大淀北1丁目から同区大淀中3丁目までの延長 約 0.3 kmの道路拡幅整備を実施するものである。</p>							
R2年度事業化		S21年度 都市計画決定 (S50年度変更)		R3年度用地着手		R5年度工事着手	
全体事業費		約23 億円		事業進捗率		約60 % 供用済延長 : - km	
計画交通量		11,200 台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	0.9	3.6 %	8.6 / 21 億円		19 / 19 億円		
	(参考) 1.5 [2%]		事業費: 8.6 / 21 億円		走行時間短縮便益: 20 / 20 億円		令和6年
	1.9 [1%]	維持管理費: 0.15 / 0.15 億円		走行経費減少便益: -0.49 / -0.49 億円			
	(残事業)	更新費: - / - 億円		交通事故減少便益: -0.23 / -0.23 億円			
(参考) 2.2	EIRR (残事業)	感度分析 (事業全体)		感度分析 (残事業)			
3.4 [2%]	8.6 %	交通量	B/C= 0.8~1.0 (±10%)	交通量	B/C= 2.0~2.4 (±10%)		
4.3 [1%]		事業費	B/C= 0.8~1.0 (±10%)	事業費	B/C= 2.0~2.5 (±10%)		
		事業期間	B/C= 0.8~1.0 (±20%)	事業期間	B/C= 1.9~2.5 (±20%)		
事業の効果等							
<p>・淀川左岸線(2期)と接続するアクセス路として機能的な道路ネットワークが形成されることにより、インターチェンジから都心部へのアクセス性の向上、都市内交通の円滑化を図ることができ、市街地の渋滞解消が期待される。</p>							
関係する地方公共団体等の意見							
<p>都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成が図られている。 2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)関連事業にも位置付けられている事業である。</p>							
事業評価監視委員会の意見							
<p>事業継続を妥当と認める。</p>							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等							
<p>周辺環境等に特に変化はない。</p>							
事業の進捗状況、残事業の内容等							
<p>用地取得率約100%、事業進捗率約60%</p>							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
<p>・大規模区分所有マンションの用地取得に時間を要し、用地取得の進捗が遅れているものの、現時点で大規模区分所有マンションの用地取得が概ね完了し、残り物件に対しても取得の目処が立っており、今後は早期完了を目指し、道路改良工事等を推進していく。</p>							
施設の構造や工法の変更等							
<p>環境負荷低減に資する取組や建設リサイクル法に基づく取組などによるコスト削減に引き続き努めながら事業を推進していく。</p>							

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)